

講義名	外国につながる子どもをめぐるソーシャルネットワーク	講座担当者	松岡洋子(岩手大学)
単位数	6	講義形式	講義、ワークショップ
実施日時	2019年11月30日(土) 10:30~16:10	実施会場	福島市中央学習センター ZOOMによる同時受講可
講座の目標及び特に目指す受講者の知識・技能・態度			
<p>講座の目標</p> <p>外国につながる子どもが日本に在住する法的、社会的背景を理解するとともに、子どもの指導・支援につながるネットワークを「社会関係資本」という視点から俯瞰しながら、そのネットワークの中での自らの役割(立ち位置)を意識し、指導・支援ができるようになる。</p> <p>特に目指す受講者の知識・技能・態度</p> <p>態度 ③ 複数の言語・文化をもつ家族の多様な事情を理解し、子どもに寄り添って支援をしようとする。 ※③は、本研修で設定した養成を目指す「資質・能力」の番号である。「<a href="#">自己評価シート</a>」参照</p>			
講座内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今日の研修で向上が期待される資質・能力</li> <li>2 文化が異なる人がともに住む難しさ 単文化社会と多文化社会／外国人に立ちはだかる3つの壁／同化か共存か</li> <li>3 外国人と法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)日本政府が定める在留資格・身分について</li> <li>(2)子どもの在留資格・身分について</li> <li>(3)様々な子どもたちの背景と家庭環境</li> <li>(4)外国につながる子どもの教育機会</li> <li>(5)ワークショップ1 教育を受ける権利が侵害されているかもしれない事例で、だれが、どのように対応(支援)できるのかをグループで考える。</li> <li>(6)散在地域の外国につながる子どもを受け入れる課題 教員や支援者が孤軍奮闘している／体制構築が困難</li> </ol> </li> <li>4 多文化コミュニティの教育課題 外国につながる子どもの教育機会の提供には、つながれる人や機関を広く求める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)ワークショップ2 外国につながる子どもがいる学校や保育所でつぶやかれる一言が書かれたカードをグループで分類し、何がつぶやきの背景にあるかを話し合う。</li> <li>(2)ワークショップ3 子ども取り巻く学校で実際に起きた課題について、課題の背景、解決の方法などについてグループで話し合う。</li> <li>(3)ワークショップ4「ひょうたん島の教育問題」(藤原孝章 2008)を体験</li> </ol> </li> <li>5 外国につながる子どもと社会関係資本(ソーシャルネットワーク) 社会関係資本とは／移民社会の社会関係資本構築のしくみ例 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)ワークショップ5 外国につながる子どもをめぐる社会資本をグループで書き出す。</li> <li>(2)社会関係資本構築の取り組み例</li> <li>(3)ワークショップ6 受講者がいるコミュニティで子どもをめぐる社会関係資本は何があるか、その中で、受講者自身はどのような役割が担えるか考える。</li> </ol> </li> <li>6 振り返り 受講者自身の資質・態度に変化はあったか。</li> </ol>			

#### 成績評価方法

講義への出席後または録画による講義の視聴後、課題を提出する。  
他の講義と併せて、80%の出席と課題の達成度60%で修了証を授与する。

〔課題〕

「私が関わっている社会関係資本について言語化し、自分の現在地を知る」という内容でレポート提出

#### 参考書

- 藤原孝章(2008)『シミュレーション教材 「ひょうたん島問題」』(明石書店)
- ロバート・D. ハットナム(2006)『孤独なボーリング—米国コミュニティの崩壊と再生』(柏書房)